



# 流鏝馬を終えて

乗り子3人へのインタビュー

当日はダイナミックな芸を披露した長澤和真さん。『練習前までは、例年の乗り子のように上手くできるようになるのか心配だったけど、練習を重ねるにつれて上達を実感し、当日は自信をもって挑めました』と振り返った。初めての流鏝馬の舞台で一の馬を務めたことについて『長い歴史のある流鏝馬に携われたことを誇りに思います。今後は口取りなど、違った形でも伝統の継承に関わっていきたいです』と笑顔で語った。

疾走する馬上で、両腕と扇を美しく広げる  
一の馬乗り子 長澤和真さん かずまさ

馬上での安定感は、流石の2年目を思わせる  
二の馬乗り子 下田恵生さん



全ての演技が完璧にも見え  
た下田恵生さん。『途中で  
馬が変更になるアクシデン  
トがあって、馬体が二回り  
位大きくなりました。乗っ  
ていてとても怖かったで  
す』と、当日の勇壮な姿と  
は裏腹の心境を吐露した。  
来年の一の馬に騎乗する可  
能性について、『もしそう  
なれば、3つあるのを全  
て射ぬきたいです。今年  
は二つ目のままでしかできな  
かったの』と飽くなき向  
上心を覗かせた。



口取り衆と談笑する下田さん

落馬のアクシデントを経てもなお騎乗する  
三の馬乗り子 五十嵐隼太さん



午前中に落馬のアクシデ  
ントがあった五十嵐隼太さ  
ん。『前日の雨で運動不足  
だったからなのか、馬が今  
までにないスピードで走っ  
て、手綱を引きましたが落  
馬しました。頭を打って救  
急搬送されたけど、これま  
で長瀬の多くの人が祭りの  
準備をしてきたのを知って  
いたので、途中で棄権する  
気持ちは一切無かった』と  
強い想いを語った。来年の  
二の馬に騎乗することにつ  
いて、『もしそうなれば、  
今年練習の成果を出し切  
れなかったのも、もっと綺  
麗な馬上芸を披露したい』  
と今年の悔しさを糧に更な  
る高みを目指す。



懸命な姿に、自然と声援が沸き起こる